

自宅が地域の“民俗博物館”

34年間自宅を開放、小学校の社会科授業に協力

池谷光朗さんが地域に貢献され、敬服されていることの一つに、網島地区各小学校の社会科の勉強の一環として毎年2月に先生に引率された各校児童に、「目で見える郷土・網島」を学ばせるため自宅を開放し、みずから講師役で尽力されていることである。

農機具の数々、昔の農家の民具、洪水の際の小舟、火災の際の格納庫、網島桃が隆盛の頃のポスター、昔の写真の数々・・・が母屋の中の物置から土間、縁側、軒下までずらっと並べ、池谷さんが一点一点、昔の人がどんなとき、どのように使っていたか・・・子どもたちに分かりやすく丁寧に説明。各学校それぞれのクラスが日時を替え、見学するのだ。

昭和50年に網島小学校で初めて開いたのを皮切りに現在までじつに“35年間地域の民俗博物館”としての役割を果たされてこられたことは、まさに掛け替えのないことである。

(編集発行 岩田忠利 「とうよこ沿線」回顧録 より)